

勝ち負けの先にある宝物

5月22日 壮行会

今週の土曜日と日曜日に迫った中総体。どきどきしますね。特に、3年生にとってはこの2年間、精一杯取り組んできた練習の成果を発揮する最後の大会となります。

今、ユニフォームをまとった君たちの一人一人に「唐桑中」という文字（マーク）がある。この文字（マーク）にふさわしい試合を繰り広げてきてほしい、そう願っています。

久しぶりに皆さんの前で話をする機会ですので、少しお話しさせてくださいね。

私も30年近く、部活動の顧問をしてきました。

実は、今になって振り返ると、中総体で優勝したかどうかとか、勝敗の結果は、あまり記憶に残っていません。

なぜなら、どのチームも最後の試合は必ず「負け」で終わっているからです。

30年のうち半分くらいは地区大会で終わりました。残りは県大会には進みましたが、全国大会出場は経験したことがありません。だから、最後は必ず「負け」で大会の幕を閉じました。

勝負は時の運もあります。

チームのエースがケガをしてしまって負けてしまったこともあるし、勝ったこともないチームなのに相手の調子が悪く、運良く勝ってしまったこともある。

そもそも、中学校から競技を始めた人ばかりのチームは、小学校から続けてきた選手が多いチームにはなかなか技術で追いつけません。それに、勝ち進めば進むほど、運動能力や練習環境、試合の経験数が圧倒的に違う相手がゴロゴロ出

てきます。

だからもし、君たちが「勝ち負け」とか「優勝する」とか「しない」とかにこだわってしまうと、せっかくの中総体がつまらないものになってしまう可能性がある。

私はせっかくの最後の大切な大会で、そんな残念な思いを君たちには絶対に感じてほしくありません。

実際、私の記憶に残っているほとんどの場面は、優勝したかどうかではない。勝ったか負けたかでもない。

「負けない」という覚悟をもって、強い相手に全力で立ち向かっていった選手の眼差し。

練習してきたプレーを本番で成功させて、声を張り上げて喜んでいるチームの盛り上がり。

思い通りにプレーできないときに、チームメイトを励ましていたキャプテンの姿。

プレーが決まったときの、はち切れんばかりの笑顔。

もちろん、試合に出ている選手だけではなく。
ベンチやギャラリーで声を張り上げて、精一杯応援している下級生の顔。

思い出すのは、そんな一瞬一瞬の選手の輝きです。
ぜひ、君たちにも、その一瞬の輝きを味わってほしい。

特に3年生にとっては最後の大会です。

緊張するのが当たり前。

いつもはしないようなミスが出ることもあります。

そんな追い込まれたときが、君たちの輝けるチャンスです。

苦しいときにこそお互いに励まし合い、必死に支え合って、次のプレーに立ち向かってほしい。

もし、これまでに練習してきたプレーができれば、点を取

っても取られても、心から讃え合ってほしい。

そして、試合に勝つとしても負けるとしても、試合終了のコールがあるまで、ゲームセットのホイッスルが鳴るまで、諦めずに、最善を尽くし、最後の最後までボールを追い続けてほしい。

その一瞬の積み重ねが、諦めない姿勢が、私にとってそうであるように、君たちの人生の宝物になる。

私はそう信じているし、君たちもそうなることを願っています。

「万里一空」。

私たちは1人ではない。同じ空の下、唐桑中のみんなが繋がっている。

君たちがこの大会を通して、どんな思いを持ち帰ってくるのか、それを楽しみにしています。

そして、心から、君たち一人一人が、この上なく光り輝く大会になることを期待しています。